



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和8年1月8日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



「電子レンジ型」か「焼きいも型」か

校長 山崎 隆

新年あけましておめでとうございます。令和8年の元日を子供たちはどのような気持ちで迎えたのでしょうか。「はじめ」とも読む「元」の文字を背負った「元日(がんにじつ)」は1月1日、まさしく新しい1年の始まりの日です。ちなみに「元旦(がんとん)」は1月1日の朝を意味していて、「旦」は地平線から顔を出した太陽をかたどったものです。日本では古くから、新年は年神様(としがみさま)が運んでくると考えられ、「あけましておめでとう」のあいさつも、無事に年神様と新年を迎えられた喜びとめでたさから生まれたお祝いの言葉だと言われています。

さて、いよいよ本格的な冬の到来です。冬の風物詩のひとつに石焼きいもがあります。私が子供の頃、冬になると母がおやつにさつまいもをふかしてくれたことが懐かしい思い出として心に残っています。子供心には、母の手作りのふかしいもより屋台を引きながら「い～しや～きいも～」と独特の節回りで売りに来る石焼きいもにとっても魅力を感じていました。今ではスーパーマーケットやコンビニエンスストアの店頭でも甘くておいしそうな匂いをさせている焼きいもですが、石焼きいものあの甘さの秘密はどこにあるのでしょうか。電子レンジでさつまいもを熱しても、石焼きいものような甘さはなかなか出せません。

それは、電子レンジが科学の原理を利用した便利な調理器具であり、石焼きいもは熱した石を使って加熱するという昔ながらの方法で作られているということに関係があります。電子レンジがマイクロ波の振動でさつまいもの水分を短時間で加熱するのに対して、石焼きいもは、熱した石でさつまいもを間接的にゆっくりと加熱することで分解酵素が働いて主成分であるデンプンが糖に変化して甘みが出るのだそうです。

このことを踏まえて学校の教育活動を見てみましょう。今年度は、5月に運動会、10月に開校150周年記念行事、12月に展覧会を行いました。子供たちはそれぞれの行事に向けて一定の期間で集中して練習に取り組んだり準備を重ねたりして、当日は保護者や地域の皆様にとっても立派にその成果を発表することができました。この取組は、学校教育の中ではどちらかといえば短期集中の「電子レンジ」型と言えるでしょう。一方で、酵素がさつまいもの甘みを引き出すように、それまでに積み重ねてきた国語、体育、図工、音楽などの日頃の学習を通して身に付けた子供たちの力を我々教師が引き出して、その成果を発表する場が学校行事であるととらえれば、長期熟成の「石焼きいも」型と捉えることもできます。学校教育は、行事ひとつひとつを点で見れば「電子レンジ型」、全体の流れを線で捉えると「石焼きいも型」と言えます。

日本の学校教育は、学習指導要領に沿って教育目標を達成するために総合的に編成する教育計画、いわゆる「教育課程(カリキュラム)」に基づいて行われます。実施7年目となる現行の学習指導要領では、学校教育の様々な取組について教育課程を中心にして計画的に実施する「カリキュラム・マネジメント」が重要であると示されています。年が明けていよいよ令和8年度の教育課程を作成する時期となりますが、約10年ごとに改訂される新学習指導要領に向けた動きも始まっています。今年度は、それらの動きにも注視しながら、教職員一同、「進んで学ぶ子ども」「たくましい子ども」「心の温かい子ども」の育成に向けて学習指導や生活指導を進めていきます。開校151年目を迎える両国小学校を、今年もどうぞよろしく願いいたします。